

日本文学の研究動向に関する一考察： 「国文学論文目録データベース」を使用して

金井 喜一郎

1. 本稿の背景と目的

「国文学論文目録データベース」は、日本文学研究論文の総合目録データベースであり、国文学研究資料館で所蔵している日本国内で発表された雑誌、紀要、単行本、論文集等に収められている、日本文学、日本語学、国語教育に関する研究論文の情報を掲載している¹⁾。日本文学関連の研究論文を網羅的に収録しているため、収録データを分析することで、日本文学の研究動向を探ることが可能である。実際、同データベースを使用して日本文学の研究動向を調査した澤井（1995²⁾や澤井（2000³⁾がある。しかしながら、澤井（2000³⁾の調査対象は発行年が1996年までの論文であり、以降に発行された論文については調査がなされていない。

一方、次章で紹介するように、特定分野の論文タイトルの集合に対してテキストマイニングの手法を用いて、その研究動向を調査した論考が散見される。通常、論文タイトルは、その論文の内容を明確に表していると考えられる。またテキストマイニングは、テキストデータ（文章データ）を計量的に分析する手法で、大量のテキストを形態素解析等により単語に分割し、それらの出現頻度や共起関係等を分析することで有用な情報を抽出する。

以上を踏まえて本稿は、「国文学論文目録データベース」を使用して、1997年以降の日本文学の研究動向を調査し、その実態を把握することを目的とする。調査においては、主に論文タイトルに対してテキストマイニングの手法を用いる。

2. 先行研究

2. 1. 日本文学の研究動向

日本文学の研究動向を調査した先行研究としては、澤井の一連の論考がある。澤井 (1995)²⁾ は、国文学研究資料館作成の「国文学論文目録データベース」を使用し、1971年から1990年に発表された近代作家に関する論文の掲載傾向を調査した。具体的には、島崎藤村、森鷗外、夏目漱石の3名の作家を対象として、これらの作家研究が近代文学全体に占める割合、論文数の経年変化、論文掲載数が多い主要雑誌（コアジャーナル）の変動、論文発表者の増減や属性などを調査した。その結果、論文総数（144,162件）に占める近代文学の割合は29.0%（41,879件）であり、そのうち島崎藤村は659件、森鷗外は1,560件、夏目漱石は2,221件、合計4,440件で、近代文学全体に占める割合は10.6%であった。論文数の経年変化を見ると、いくつかのピークを経て1990年に向けて大きく増加しており、論文数は20年間で3倍から5倍に増えている。コアジャーナルに関しては、森鷗外と夏目漱石の掲載論文数上位2位までに変動はなく、森鷗外については1位が「鷗外」、2位が「国文学」、夏目漱石については1位が「国文学」、2位が「解釈と鑑賞」であった。なお、夏目漱石において2位の「解釈と鑑賞」は、森鷗外においては、1971年から1980年の期間は4位、1981年から1990年の期間は3位であった。そのほか、論文数の増減と論文発表者数の増減には正の相関が認められた。

澤井 (1995)²⁾ が国文学専門のデータベース（「国文学論文目録データベース」）を利用し、さらに特定の作家（島崎藤村、森鷗外、夏目漱石）のみを調査対象としたのに対し、澤井 (1996)⁴⁾ は、国文学全般の研究動向を明らかにすることを目的として、国立国会図書館作成の「雑誌記事索引データベース」⁵⁾ を使用して、主として大学教員によって1985年から1994年に発表された国文学関係の論文を対象に調査した。具体的には、まず前述の条件により抽出した37,668件の論文を「雑誌記事索引データベース」の分類項目を参考に13区分（比較文学、上代文学、平安文学、中世文学、近世文学、現代文学⁶⁾、戯曲、詩、短歌、俳句、児童文学、東洋文学、中国文学）に分類した。この分野別の論文数を見ると、現代文学が13,266件（35.2%）と一番多く、それに短歌の3,410件（9.1%）、俳句の3,389件（9.0%）が続いた。また分野別の

論文数の経年変化を見ると、古典文学⁷⁾では上代文学の論文数が大きく減少する一方で、平安文学、中世文学、近世文学には増加傾向が見られた。これに対し近代文学⁸⁾では現代文学、俳句が増加傾向にある一方で、短歌および戯曲には大幅な減少が見られた。

続いて澤井³⁾(2000)は、「国文学論文目録データベース」の収録期間が大幅に増強されたのを受け、澤井²⁾(1995)以来再び同データベースを使用して国文学の研究動向を調査した。具体的には、1926年から1996年に発表された論文を対象に、まず分野別論文数を調べたところ、近代文学84,431件(27%)、近世文学44,203件(15%)、中世文学37,286件(13%)、中古文学34,720件(12%)、国語学29,248件(10%)、国文学一般25,226件(8%)、上代文学22,539件(8%)、国語教育19,567件(7%)であった。全論文数の経年変化を見ると、増減を繰り返しながらも、全体的にははっきりとした増加傾向が認められた。分野別に経年変化を見ても、概ね全体と同様の増加傾向が見られたが、国語教育については、直近の約10年間の論文数はほぼ一定であった。一方、近代文学については、他分野に比べて論文数の急激な増加が確認できた。

2. 2. 論文タイトルに対する計量的分析

論文タイトルの集合をテキストマイニングの手法により計量的に分析し、特定分野の研究動向を調査したものとして、まずは畑野⁹⁾(畑野ら)の一連の論考がある。いずれもCiNii掲載論文を対象として、各種テーマに関わる研究動向を調査したもので、調査の対象としたテーマは、国際理解教育¹⁰⁾、「総合的な学習の時間」における情報教育¹¹⁾、保育実習指導¹²⁾、保育内容¹³⁾、運動遊び¹⁴⁾、体育科の授業におけるダンス教育¹⁵⁾、保育内容「環境」¹⁶⁾、である。具体的には、CiNiiを使用して、各テーマに関わる検索語句と発行期間の限定により論文を抽出している。ただし、検索にあたっては検索項目に「フリーワード」が用いられているため、論文タイトル以外に著者名等も検索の対象となっている。このようにして抽出された論文を絞り込んだ上で、出典や経年変化、論文タイトルの形態素解析により抽出した語の出現頻度と共起関係等を分析した。

同じくCiNii掲載論文を調査対象としたものには、高畑¹⁷⁾や厨子¹⁸⁾、三尾¹⁹⁾がある。高畑¹⁷⁾は、保育所保育指針等3法令改正前後の保育内容「人間関係」に

関する研究動向を調査した。具体的には、CiNiiを使用して、保育内容「人間関係」を検索語句とし、発行期間を1998年から2020年に限定して論文を抽出した。ただし、畑野と同様に検索にあたっては検索項目「フリーワード」が用いられているため、論文タイトル以外に著者名等も検索の対象となっている。このようにして抽出された論文を絞り込んだ上で、出典や経年変化、論文タイトルの形態素解析により抽出した語の出現頻度と共起関係等を分析した。一方、¹⁸⁾厨子は、²⁰⁾CiNii Articles掲載論文を対象として、スクールソーシャルワークに関する研究動向を調査した。具体的には、「学校ソーシャルワーカー」、「学校ソーシャルワーク」、「スクールソーシャルワーカー」、「スクールソーシャルワーク」の各キーワードでCiNii Articlesを検索して論文を抽出した。それらの論文から重複を取り除き、論文、研究ノート、調査報告等の種別により絞り込みを行った上で、論文数の経年変化、論文タイトルの形態素解析により抽出した語の出現頻度と共起関係等を分析した。また、¹⁹⁾三尾らは、CiNii Articles掲載論文を対象として、看護のシミュレーション教育のロールプレイに関する研究動向を調査した。具体的には、CiNii Articlesの検索項目「フリーワード」を使用して、「看護」と「ロールプレイ」の二つのキーワードのAND検索により論文を抽出した。そこからテーマが看護以外の論文や、学会抄録や研究費報告書など論文以外の文献を取り除いた上で、出典（紀要、学会誌、雑誌）ごとの論文数の経年変化、論文タイトルの形態素解析により抽出した語の出現頻度と共起関係等を分析した。

CiNiiには全学問分野の論文が掲載されるため、特定分野の研究動向を調査する場合、まずそれらの論文を抽出する必要がある。これに対し、特定分野の雑誌に掲載された論文を調査対象とすればその必要はない。特定分野の雑誌の掲載論文を対象に調査したものには、²¹⁾山本や²²⁾小田切、²³⁾許がある。山本は、日本スポーツ心理学会誌「スポーツ心理学研究」に掲載された論文の研究動向を調査した。具体的には、1990年から2019年までに刊行された論文の日本語タイトルと英語タイトルを対象として、論文数の経年変化や、形態素解析により抽出した語の出現頻度と共起関係を分析した。また、²²⁾小田切は、政策系大学における研究動向を調査した。具体的には、同志社大学大学院総合政策科学研究科を対象として、同研究科の学会誌である「同志社政策科学研究」に掲載された論文および同研究科所属の大学院生が執筆した修士論文・博士

論文について、論文数やページ数、筆者の女性比率の経年変化を調査し、次いで論文タイトルの形態素解析により抽出した語の出現頻度、また抽出語間および抽出語と筆者の性別、論文種別、執筆年次との関連性を分析した。一方、許²³⁾は、日本における「中国語教育研究」の現状と課題を明らかにすることを目的として、日本中国語教育学会誌「中国語教育」の論文タイトルを分析した。具体的には、「中国語教育」の第1号(2003年)から第15号(2017年)までに掲載された論文タイトルを対象とし、種別(特集論文, 研究論文, 実践報告)ごとの論文数の経年変化を調査し、次いで論文タイトルの形態素解析により抽出した語の出現頻度、また抽出語の種別ごとの特徴や一定期間(5年間)ごとの特徴を分析(対応分析)した。

特定分野の雑誌には、その分野の研究論文が網羅的に掲載されているとは限らない。これに対し、特定分野の文献データベースは、その分野の文献を網羅的に収録していると考えられる。藤岡²⁴⁾は、アメリカ心理学会(American Psychological Association; APA)が提供する文献データベース APA PsycNETを使用して、複数の人種的背景を持つ人々に関する心理学的研究の動向を調査した。具体的には、APA PsycNETの検索項目「Indexed Terms」に検索語句「interracial offspring」を設定して文献を抽出し、それらを絞り込み項目「Age Group」を利用して研究対象となっている年齢層で区分した。こうして抽出された文献を対象として、「Age Group」ごとの文献数やそれらのタイトル中の頻出語とその共起関係等を分析した。

なお、上に挙げた先行研究のいずれもが、各種分析にあたって「KH Coder」を使用している。「KH Coder」は樋口²⁵⁾が開発したテキストマイニングのためのフリーソフトウェアであり、多くの研究で使用されている。

3. 調査方法

3. 1. 調査対象

「国文学論文目録データベース」に収録されている、発行年が1997年から2017年までの論文を調査対象とする。発行年を2017年までとしたのは、調査日である2022年2月9日の時点において直近数年間の発行年ごとのデータ件数を確認したところ、10,160件(2014年)、9,783件(2015年)、10,162件

(2016年), 9,918件 (2017年), 8,059件 (2018年), 5,058件 (2019年), 256件 (2020年), 155件 (2021年) となっており, 発行年が2018年以降の論文に関してはデータの未入力が多いと判断したからである。

3. 2. 調査方法

調査対象となるデータに対して, 主に表計算ソフト Microsoft Excelおよび前述の「KH Coder」(KH Coder²⁶⁾)を用いて, 計量的な分析を行う。また「国文学論文目録データベース」は, 「時代分類」として, 「上代文学」, 「中世文学」, 「中古文学」, 「国文学一般」, 「国語」, 「国語教育」, 「近世文学」, 「近代文学」を設定しており, さらに「詩」, 「小説」, 「著作家別」などの詳細な「分野」も設定しているので, これらを利用する。

調査は大きく2段階に分け, 第1段階では, まず発行年別論文数(全体)の経年変化を概観し, 次に「時代分類」および一部の「分野」の発行年別論文数を比較し概要を把握する。第2段階では, 範囲を限定した上でデータをダウンロードし, 主に論文タイトルの詳細な分析を試みる。

4. 結果

4. 1. 概要

第1図のグラフは, 発行年別論文数(全体)の経年変化を示している。今回の調査対象は発行年が1997年から2017年の論文であるが, このグラフには発行年が1926年から2016年の論文, つまり澤井(2000)³⁾が調査対象とした論文のデータ²⁷⁾も含まれている。このように, 今回の調査対象期間以前のデータも示すことによって, 今回の調査対象期間の傾向をより明確に確認することができると考えた。



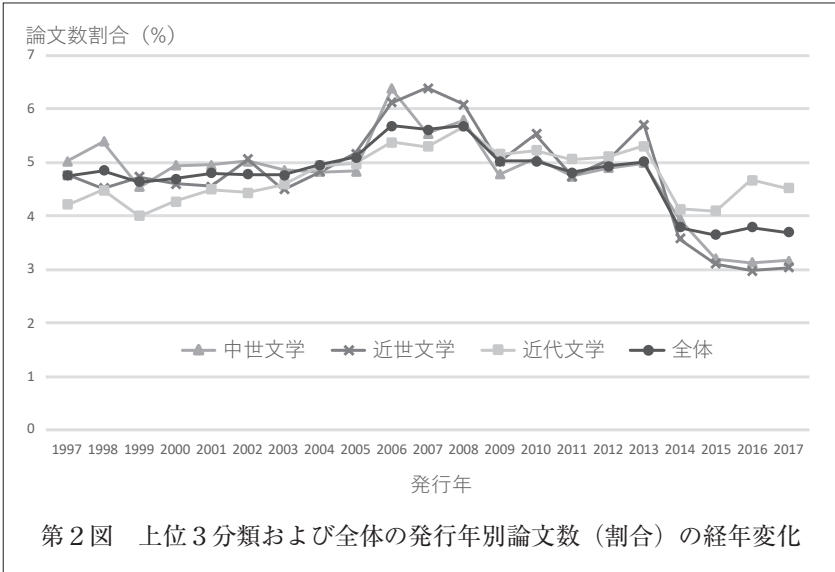
全体的に見ると、発行年が1926年から1996年までの論文数の経年変化には、前述のとおり、はっきりとした増加傾向が認められる。この傾向は今回の調査対象期間である1997年以降も続き、2008年にピークを迎えるが、その後は急激な減少傾向に転じている。今回の調査対象期間（1997年から2017年）だけを切り取れば、中央にピークを持ち、上りは緩やかで下りは急な「山形」を描いている。

次に、「時代分類」ごとの論文数を見ると、第1表に示されたように、「近代文学」が92,813件で全体（268,422件）の34.6%を占めている。これに続くのは「近世文学」の40,994件（15.3%）、「中世文学」の31,308件（11.7%）であるが、ともに「近代文学」の半数に満たない。また第2図に示したように、論文数をそれぞれの合計数に対する割合に換算した上で、これら3分類と先にみた全体の経年変化を比較すると、概ね傾向が類似していることが分かる。特に「近世文学」と「中世文学」は、全体との相関係数もそれぞれ0.97、0.94と高い。一方で「近代文学」は、全体との相関係数は0.72であり他の2分類よりも低く、また経年変化に「山形」の傾向は認められるものの、他に比べてピークからの下降幅が狭い。さらに八つの「時代分類」のなかで唯一、調

査対象期間の最初年（1997年）の論文数よりも最終年（2017年）の論文数の方が多い。このため、第1表に基づき発行年ごとの「近代文学」の割合を算出すると、1997年の30.7%（3,910件/12,748件）から徐々に上昇してゆき、2009年には35%を超え（4,784件/13,480件）、2016年になると42.7%（4,336件/10,162件）に達している。

第1表 時代分類ごとの論文数

発行年	上代 文学	中世 文学	中古 文学	国文学 一般	国語	国語 教育	近世 文学	近代 文学	合計
1997	708	1,574	1,342	1,047	1,240	973	1,954	3,910	12,748
1998	704	1,687	1,179	1,212	1,318	903	1,853	4,160	13,016
1999	850	1,423	1,191	1,019	1,397	919	1,938	3,713	12,450
2000	723	1,547	1,216	1,015	1,480	765	1,886	3,962	12,594
2001	626	1,550	1,292	992	1,569	820	1,867	4,173	12,889
2002	579	1,571	1,148	1,005	1,457	869	2,075	4,111	12,815
2003	684	1,521	1,243	1,073	1,376	791	1,841	4,255	12,784
2004	616	1,509	1,284	1,143	1,348	819	1,979	4,584	13,282
2005	603	1,515	1,450	1,004	1,591	787	2,115	4,616	13,681
2006	699	1,997	1,383	1,232	1,629	815	2,507	4,992	15,254
2007	671	1,735	1,427	1,339	1,577	777	2,620	4,919	15,065
2008	678	1,814	1,606	1,247	1,410	755	2,494	5,258	15,262
2009	640	1,496	1,325	1,121	1,421	641	2,052	4,784	13,480
2010	545	1,586	1,143	1,099	1,300	675	2,267	4,853	13,468
2011	610	1,485	1,174	1,144	1,233	638	1,944	4,694	12,922
2012	617	1,533	1,111	1,116	1,406	637	2,062	4,740	13,222
2013	652	1,563	992	1,132	1,385	482	2,339	4,922	13,467
2014	459	1,232	854	784	1,037	492	1,466	3,836	10,160
2015	424	1,002	915	834	909	627	1,274	3,798	9,783
2016	357	979	732	742	1,192	604	1,220	4,336	10,162
2017	455	989	666	792	947	631	1,241	4,197	9,918
合計	12,900 (4.8%)	31,308 (11.7%)	24,673 (9.2%)	22,092 (8.2%)	28,222 (10.5%)	15,420 (5.7%)	40,994 (15.3%)	92,813 (34.6%)	268,422 (100.0%)



そこで「近代文学」の詳細を把握するために、「近代文学」における「分野」ごとの論文数を示したものが第2表である。分野ごとの論文数を比較すると、「著作家別」が55,476件で、「近代文学」全体(92,813件)の6割近く(59.8%)を占めていることが分かる。なお「著作家別」の発行年別論文数は、概ね2,100件から3,200件の範囲で推移しているが、1997年のみ653件と他の年に比べてかなり少ない。一方「作家別」の論文数は、1997年の2,103件以降はすべて0件となっている。また「著作家別」と「作家別」の1997年の論文数を合計すると2,756件となり、「著作家別」の1998年の論文数2,843件に近い。以上のことから、1998年以降は「作家別」が「著作家別」に統合されたと考えるのが自然であろう。この考えに従い、本稿では以降、1997年に関しては「作家別」と「著作家別」を合わせて「著作家別」として取り扱うこととする。こうして1997年の「著作家別」の論文数を2,756件とした場合、合計では57,579件となり、「近代文学」全体の6割を超える(62.0%)ことになる。次節では、この「著作家別」の詳細な調査結果を述べる。

第2表 時代分類「近代文学」における分野ごとの論文数

発行年	一般	演劇・ 芸能	国語	作家別	詩	児童 文学	書評・ 紹介	小説	短歌	著作 家別	俳句	評論	合計
1997	513	96	17	2,103	62	59	242	6	103	653	51	5	3,910
1998	540	76	0	0	115	72	273	24	130	2,843	61	26	4,160
1999	478	62	0	0	34	39	304	30	74	2,642	46	4	3,713
2000	637	47	0	0	48	28	311	16	71	2,732	65	7	3,962
2001	614	46	0	0	143	90	280	52	70	2,782	81	15	4,173
2002	689	83	0	0	81	95	276	51	99	2,675	57	5	4,111
2003	773	68	0	0	88	64	365	28	68	2,748	53	0	4,255
2004	778	120	0	0	84	88	325	48	70	3,032	26	13	4,584
2005	908	111	0	0	58	87	318	61	91	2,874	101	7	4,616
2006	987	131	0	0	67	81	293	56	75	3,197	103	2	4,992
2007	1,063	102	0	0	68	58	300	60	80	3,088	96	4	4,919
2008	1,232	127	0	0	70	54	369	72	185	3,045	97	7	5,258
2009	1,133	91	0	0	83	55	312	49	130	2,811	110	10	4,784
2010	1,087	132	0	0	50	59	338	47	169	2,837	131	3	4,853
2011	1,049	135	0	0	38	53	330	52	162	2,782	90	3	4,694
2012	1,163	134	0	0	56	55	315	49	171	2,708	89	0	4,740
2013	1,292	152	0	0	55	57	400	71	126	2,716	48	5	4,922
2014	1,114	111	0	0	52	56	284	43	29	2,122	22	3	3,836
2015	982	141	0	0	60	57	284	37	56	2,160	20	1	3,798
2016	985	131	0	0	62	50	339	59	148	2,490	66	6	4,336
2017	870	81	0	0	39	62	348	56	140	2,539	60	2	4,197
合計	18,887 (20.3%)	2,177 (2.3%)	17 (0.0%)	2,103 (2.3%)	1,413 (1.5%)	1,319 (1.4%)	6,606 (7.1%)	967 (1.0%)	2,247 (2.4%)	55,476 (59.8%)	1,473 (1.6%)	128 (0.1%)	92,813 (100.0%)

4. 2. 分野「著作家別」の詳細

4. 2. 1. 論文執筆者数

合計57,579件の論文執筆者数（異なり数²⁸⁾は、16,227名であった。この16,227名の内訳を、1997年から2017年までの21年間に発表した論文数別に示したものが第3表である。この表に示されたように、分野「著作家別」における21年間の論文発表数が1件の執筆者数は、執筆者数合計16,227名の約6割にあたる9,581名であった。これに発表数が2件の2,263名と発表数が3件の1,006名を加えると12,850名となり、執筆者数合計の約8割に達する。一方、この12,850名が執筆した論文数の累計は17,125件で、論文数合計57,579件の29.7%であった。以下同様に見ると、発表数が6件までの執筆者数は14,295名で論文数累計が24,029件（41.7%）、発表数が9件までの執筆者数は14,938名で論文数累計が29,045件（50.4%）であった。論文発表数が12件になると、その執筆者数は2桁となり、以降は緩やかに漸減してゆく。論文発

表数が34件で執筆数は1桁となり、発表数69件から199件（最大値）までの執筆者数は1名あるいは2名であった。

次に発行年別の論文執筆者数（異なり数）を第4表に示す。各年の執筆者数は、概ね1,500名から2,200名の範囲にあり、平均は1,893名であった。

第3表 分野「著作家別」における論文発表数別の執筆者数と論文数

発表 数	執筆 者数	論文数				発表 数	執筆 者数	論文数				発表 数	執筆 者数	論文数			
		小計	累計	割合				小計	累計	割合				小計	累計	割合	
1	9,581	9,581	9,581	16.6%		33	13	429	47,883	83.2%		70	1	70	53,473	92.9%	
2	2,263	4,526	14,107	24.5%		34	5	170	48,053	83.5%		71	1	71	53,544	93.0%	
3	1,006	3,018	17,125	29.7%		35	9	315	48,368	84.0%		73	1	73	53,617	93.1%	
4	659	2,636	19,761	34.3%		36	8	288	48,656	84.5%		74	2	148	53,765	93.4%	
5	448	2,240	22,001	38.2%		37	8	296	48,952	85.0%		79	1	79	53,844	93.5%	
6	338	2,028	24,029	41.7%		38	7	266	49,218	85.5%		81	1	81	53,925	93.7%	
7	284	1,988	26,017	45.2%		39	4	156	49,374	85.8%		82	2	164	54,089	93.9%	
8	203	1,624	27,641	48.0%		40	9	360	49,734	86.4%		83	1	83	54,172	94.1%	
9	156	1,404	29,045	50.4%		41	2	82	49,816	86.5%		85	1	85	54,257	94.2%	
10	157	1,570	30,615	53.2%		42	1	42	49,858	86.6%		86	2	172	54,429	94.5%	
11	123	1,353	31,968	55.5%		43	8	344	50,202	87.2%		88	1	88	54,517	94.7%	
12	96	1,152	33,120	57.5%		44	4	176	50,378	87.5%		92	1	92	54,609	94.8%	
13	86	1,118	34,238	59.5%		45	3	135	50,513	87.7%		97	1	97	54,706	95.0%	
14	85	1,190	35,428	61.5%		46	7	322	50,835	88.3%		98	1	98	54,804	95.2%	
15	79	1,185	36,613	63.6%		47	7	329	51,164	88.9%		100	2	200	55,004	95.5%	
16	62	992	37,605	65.3%		48	8	384	51,548	89.5%		102	1	102	55,106	95.7%	
17	55	935	38,540	66.9%		49	1	49	51,597	89.6%		104	1	104	55,210	95.9%	
18	51	918	39,458	68.5%		51	3	153	51,750	89.9%		106	2	212	55,422	96.3%	
19	36	684	40,142	69.7%		52	1	52	51,802	90.0%		112	1	112	55,534	96.4%	
20	33	660	40,802	70.9%		53	2	106	51,908	90.2%		113	1	113	55,647	96.6%	
21	37	777	41,579	72.2%		54	3	162	52,070	90.4%		119	1	119	55,766	96.9%	
22	28	616	42,195	73.3%		55	5	275	52,345	90.9%		128	1	128	55,894	97.1%	
23	24	552	42,747	74.2%		56	4	224	52,569	91.3%		131	1	131	56,025	97.3%	
24	25	600	43,347	75.3%		57	1	57	52,626	91.4%		149	1	149	56,174	97.6%	
25	16	400	43,747	76.0%		60	2	120	52,746	91.6%		168	1	168	56,342	97.9%	
26	16	416	44,163	76.7%		61	1	61	52,807	91.7%		171	1	171	56,513	98.1%	
27	26	702	44,865	77.9%		62	1	62	52,869	91.8%		199	1	199	56,712	98.5%	
28	18	504	45,369	78.8%		64	2	128	52,997	92.0%		(執筆者数 867 57,579 100.0%)					
29	24	696	46,065	80.0%		66	1	66	53,063	92.2%		名空欄)					
30	18	540	46,605	80.9%		67	1	67	53,130	92.3%		合計 16,227					
31	15	465	47,070	81.7%		68	3	204	53,334	92.6%							
32	12	384	47,454	82.4%		69	1	69	53,403	92.7%							

第4表 分野「作家別」における発行年別の執筆者数

発行年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
執筆者数	1,822	1,884	1,795	1,873	1,851	1,857	1,900	2,042	2,001	2,202	2,113
発行年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	平均
執筆者数	2,081	1,878	1,912	1,940	1,948	1,970	1,587	1,516	1,748	1,832	1,893

4. 2. 2. 主な掲載雑誌（コアジャーナル）

掲載雑誌（単行書含む）の総数は2,889誌（冊）であった。この中には、多くの論文が掲載される主要雑誌（コアジャーナル）が少数存在する。掲載雑誌をそこに掲載される論文数が多い順に並べると、上位3誌で論文数累計は5,628件となり、全論文数（57,579件）に対する割合（累計割合）は9.8%に達する。以降は上位10誌で20.0%、上位25誌で30.7%、上位50誌で40.7%、上位100誌で51.3%に到達する。このうち、上位25誌の具体的な雑誌名および掲載論文数・割合は第5表に示したとおりである。さらに、これら25誌の掲載論文数の経年変化を示したものが第6表であるが、これについては次章にて考察を加える。

第5表 分野「作家別」の主な掲載雑誌

順位	雑誌名	論文数	割合	累計割合	順位	雑誌名	論文数	割合	累計割合
1	解釈と鑑賞	2,190	3.8%	3.8%	14	江古田文学	449	0.8%	23.3%
2	現代詩手帖	1,724	3.0%	6.8%	15	短歌研究	443	0.8%	24.1%
3	ユリイカ	1,714	3.0%	9.8%	16	昭和文学研究	428	0.7%	24.8%
4	国文学	1,248	2.2%	11.9%	17	文学	418	0.7%	25.6%
5	短歌	1,002	1.7%	13.7%	18	短歌21世紀	392	0.7%	26.2%
6	日本古書通信	943	1.6%	15.3%	19	解釈	389	0.7%	26.9%
7	新潮	829	1.4%	16.8%	20	彷彿月刊	384	0.7%	27.6%
8	文学界	667	1.2%	17.9%	21	日本文学	366	0.6%	28.2%
9	群像	647	1.1%	19.0%	22	俳句研究	365	0.6%	28.8%
10	太宰治研究	572	1.0%	20.0%	23	波	363	0.6%	29.5%
11	群系	513	0.9%	20.9%	24	図書	352	0.6%	30.1%
12	あるご	468	0.8%	21.7%	25	俳句	352	0.6%	30.7%
13	日本近代文学	460	0.8%	22.5%					

第6表 分野「著作家別」の主要雑誌における掲載論文数の経年変化

雑誌名	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
解釈と鑑賞	175	144	160	142	152	123	171	151	153	126	195	160	144	106	88	0	0	0	0	0	0
現代詩手帖	24	33	76	44	55	108	86	89	27	107	118	125	72	37	71	116	86	117	138	130	65
ユリイカ	54	49	24	86	56	15	49	78	21	75	73	93	26	158	121	114	113	80	60	158	211
国文学	128	164	100	80	94	90	84	95	104	82	77	98	52	0	0	0	0	0	0	0	0
短歌	44	51	65	22	41	94	73	61	58	63	59	47	43	46	39	82	30	0	0	32	52
日本古書通信	32	29	40	40	30	32	20	34	28	44	50	46	73	76	79	45	23	38	44	80	60
新潮	24	42	57	30	36	16	33	36	43	46	36	51	56	48	41	30	51	0	49	50	54
文学界	34	11	38	16	26	38	33	34	51	31	31	24	27	38	22	55	50	46	0	0	62
群像	36	26	31	22	38	32	23	15	53	18	39	20	26	58	53	31	21	21	16	17	51
太宰治研究	20	16	18	59	34	56	17	20	16	16	13	17	27	26	32	32	38	38	31	26	20
群系	9	7	5	4	9	12	11	13	28	7	26	43	38	40	30	47	38	21	45	36	44
あるご	38	29	25	24	24	24	24	24	23	22	17	37	43	44	24	21	0	0	0	23	2
日本近代文学	28	20	19	22	19	17	18	21	29	30	34	28	30	29	12	9	17	21	22	20	15
江古田文学	0	0	14	34	37	31	33	5	18	46	25	42	31	39	38	37	0	0	0	8	11
短歌研究	5	16	13	19	34	15	20	20	29	29	40	27	21	20	28	28	36	0	0	31	12
昭和文学研究	27	24	25	26	16	25	17	20	16	23	20	24	13	17	14	22	15	19	12	30	23
文学	33	14	13	28	25	8	12	29	22	6	29	20	33	11	9	24	45	27	7	23	0
短歌21世紀	0	14	22	21	7	31	33	12	9	23	26	27	19	13	11	14	22	0	19	30	39
解釈	22	29	22	20	25	26	24	22	24	21	18	16	16	14	11	12	13	13	15	11	15
彷彿月刊	17	13	18	16	44	34	38	13	7	47	23	32	37	45	0	0	0	0	0	0	0
日本文学	24	22	19	17	9	14	15	14	24	14	19	16	9	21	15	18	19	17	17	24	19
俳句研究	21	37	26	16	15	20	20	20	34	37	17	3	38	34	27	0	0	0	0	0	0
波	0	9	7	2	4	3	4	3	6	2	0	3	38	48	48	42	52	0	0	58	34
図書	20	10	4	7	15	7	18	30	31	13	7	4	17	17	20	15	10	0	37	44	26
俳句	0	0	0	12	24	12	37	53	17	0	7	2	32	27	4	13	31	0	0	45	36

4. 2. 3. 著作家別の論文数

発行期間が1997年から2017年までの分野「著作家別」のデータ 57,579件をダウンロードし、主に論文タイトルに対する分析を試みた。まずは、著作家ごとの論文数（出現頻度）を集計するために、KH Coderを使用して「強制抽出する語の指定」および著作家名のコーディングルールを作成した。「強制抽出する語の指定」については、例えば「夏目漱石」に対して、「夏目」と「漱石」を個別に集計するのではなく「夏目漱石」として集計する場合、「夏名漱石」を強制抽出する語として指定する必要がある。一方、「夏目漱石」について言えば、論文タイトル上では「夏目漱石」以外にも、「夏目金之助」や「漱石」などさまざまな表記がなされる。これらの表記をすべて「夏目漱石」として集計するためには、そのための条件を設定する必要がある。これがコーディングルールである。コーディングルールの作成にあたっては、まずコーディングルール作成の対象候補となる複合語をKH Coderの機能「複合語の検出²⁹⁾」を使って抽出した。その結果、57,053件の複合語が抽出され、そこから筆者が目視により人名と判断した909件を手作業により再度抽出した。この中から、この段階で出現頻度が50回以上の上位167件（167名）をコーディングの対象とした。

第7表 著作家名のコーディング例

コード名	コーディングルール
*安部公房	安部公房 or 公房 or 阿部公房
*永井荷風	永井荷風 or 荷風 or 金阜山人
*横溝正史	横溝正史 or 正史、
*岡倉天心	岡倉天心 or 岡倉覚三 or 岡倉の or 天心
*夏目漱石	夏目漱石 or 夏目金之助 or 漱石
*芥川龍之介	芥川龍之介 or 芥川 or 芥川竜之介 or 龍之介
*宮沢賢治	宮沢賢治 or 宮沢文学 or 宮沢君 or 賢治
*金子みすゞ	金子みすゞ or 金子みすず or 金子みずゞ or みすゞ
*高見順	高見順 or 高間芳雄
*小泉八雲	小泉八雲 or ラフカディオ・ハーン or 八雲 or ハーン
*埴谷雄高	埴谷雄高 or 埴谷 or 般若豊
*森鷗外	森鷗外 or 鷗外 or 森林太郎
*正岡子規	正岡子規 or 子規 or 正岡常規 or 正岡家
*折口信夫	折口信夫 or 釈迢空 or 迢空 or、信夫、 or 折口
*太宰治	太宰治 or 太宰 or 津島修治
*中村正直	中村正直 or 中村敬宇
*田村俊子	田村俊子 or 佐藤俊子 or 俊子作品 or 俊子文学 or 俊子さん or 佐藤露英
*内田百閒	内田百閒 or 百閒 or 百鬼園
*樋口一葉	樋口一葉 or 一葉 or 樋口家 or 樋口奈津
*福沢諭吉	福沢諭吉 or 福翁 or 福沢 or 諭吉
*夢野久作	夢野久作 or 夢の久作 or 久作
*与謝野晶子	与謝野晶子 or 与謝野夫婦 or 与謝野源氏 or 晶子 or 鳳晶子

コーディングルールは、筆者が個々のデータを目視により判別した上で設定した。第7表は、今回設定したコーディングルールの一例である。コーディングルールの基本形は、「姓名 or 姓 or 名」としたが、姓あるいは名のみでは人物を特定できない場合は、姓あるいは名の前後に文字を加えた。例えば横溝正史（コード名「*横溝正史」）のコーディングルールは「横溝正史 or 正史、」であるが、「正史」だけでは、正統と認められた歴史書を意味する「正史」と区別できないため、実際のデータを見て確実に区別できることを筆者が確認した上で「正史、」とした。一方、「横溝」を設定しなかったのは、「横溝」のみの表記で「横溝正史」を表したデータ（論文タイトル）が存在しないためである。そのほか、「芥川龍之介」の異表記である「芥川竜之介」、

「太宰治」の本名である「津島修治」,「永井荷風」の別名(別号)である「金
 阜山人」などについても,それらを含むデータが存在する場合には設定に加
 えた。なお,「正史、」などは当然,前述の「強制抽出する語」として指定し
 ておく必要がある。

第8表 分野「作家別」における論文数(上位46名)

順位	作家名	論文数	割合	順位	作家名	論文数	割合
1	*夏目漱石	1,938	3.37%	25	*大江健三郎	323	0.56%
2	*太宰治	1,417	2.46%	26	*小林秀雄	322	0.56%
3	*森鴎外	1,323	2.30%	27	*島崎藤村	322	0.56%
4	*宮沢賢治	1,301	2.26%	28	*吉本隆明	300	0.52%
5	*芥川龍之介	1,251	2.17%	29	*安部公房	292	0.51%
6	*正岡子規	927	1.61%	30	*北村透谷	284	0.49%
7	*谷崎潤一郎	768	1.33%	31	*岡本かの子	278	0.48%
8	*三島由紀夫	761	1.32%	32	*北原白秋	277	0.48%
9	*川端康成	718	1.25%	33	*柳田国男	273	0.47%
10	*村上春樹	649	1.13%	34	*南方熊楠	268	0.47%
11	*泉鏡花	591	1.03%	35	*高浜虚子	264	0.46%
12	*石川啄木	562	0.98%	36	*中島敦	263	0.46%
13	*横光利一	561	0.97%	37	*室生犀星	263	0.46%
14	*志賀直哉	520	0.90%	38	*若山牧水	258	0.45%
15	*斎藤茂吉	481	0.84%	39	*堀辰雄	257	0.45%
16	*中原中也	470	0.82%	40	*有島武郎	245	0.43%
17	*与謝野晶子	445	0.77%	41	*小泉八雲	243	0.42%
18	*樋口一葉	426	0.74%	42	*田山花袋	242	0.42%
19	*坂口安吾	398	0.69%	43	*林芙美子	233	0.40%
20	*折口信夫	373	0.65%	44	*佐藤春夫	232	0.40%
21	*遠藤周作	365	0.63%	45	*井伏鱒二	225	0.39%
22	*永井荷風	347	0.60%	46	*江戸川乱歩	218	0.38%
23	*萩原朔太郎	342	0.59%	(小計)		23,151	40.21%
24	*中野重治	335	0.58%				

集計の結果,作家名を論文数が多い順に並べた場合,上位46名の論文数
 小計は23,151件となり,分野「作家別」の論文数合計57,579件の40%を超
 えることが分かった。46名の論文数の詳細は第8表に示したとおりである。

なお、167名全員の論文数については付録を参照されたい。第8表に示されたように、1位の夏目漱石の論文数は1,938件で論文数合計(57,579件)の3.37%を占めており、2位の太宰治(1,417件、2.46%)とは論文数で521件、割合で0.91%の差がある。これに対し、2位の太宰治から、3位の森鷗外(1,323件、2.30%)、4位の宮沢賢治(1,301件、2.26%)、5位の芥川龍之介(1,251件、2.17%)までは、それぞれ前後との差が、論文数で94件、22件、50件、割合で0.16%、0.04%、0.09%と小さい。5位の芥川龍之介と6位の正岡子規(927件、1.61%)との差は、論文数で324件、割合で0.56と再び開いている。このように、論文数が特に多い1名と、それに次ぐ4名を確認することができる。

第9表 分野「作家家別」における論文数上位5名の発行年別論文数

発行年	*夏目漱石	*太宰治	*森鷗外	*宮沢賢治	*芥川龍之介
1997	127	49	79	76	51
1998	122	87	85	66	56
1999	96	87	69	49	85
2000	139	78	75	76	55
2001	141	86	65	82	86
2002	68	74	72	54	51
2003	85	54	50	82	58
2004	78	88	75	48	67
2005	136	80	77	51	45
2006	93	60	52	92	44
2007	78	73	85	59	93
2008	88	98	56	50	77
2009	83	89	46	87	54
2010	87	73	44	52	73
2011	67	51	54	79	50
2012	67	63	83	43	54
2013	75	50	83	57	60
2014	65	68	62	47	58
2015	53	35	38	45	41
2016	77	36	31	53	55
2017	113	38	42	53	38
平均	92.29	67.48	63.00	61.95	59.57
変動係数	0.28	0.28	0.26	0.25	0.25

そこで、この上位5名の発行年別論文数を第9表に示した。著作家ごとにデータのばらつきを見ると、その変動係数はそれぞれ0.25から0.28の範囲にあり、5名の間に大きな差は見られない。また、5名とも1997年から2017年にかけて減少傾向にある。ただし、後半の10年間（2008年から2017年）だけを見ると、夏目漱石以外の4名は依然として減少傾向にあるが、夏目漱石については2015年から2017年にかけて大きく増加しているため、この10年間の傾向としてはほぼ横ばい状態にある。なお、夏目漱石の最後の2年間の増加率は213%で、第9表に示した範囲では、2年間の増加率としてもっとも高い。

4. 3. 分野「著作家別」における論文数上位3名の詳細

4. 3. 1. 小説タイトルの抽出

澤井（1995²⁾）は、「近代文学の巨匠」として、島崎藤村、森鷗外、夏目漱石を取り上げて、近代文学の研究動向を調査した。本稿もこれに倣い、前項4. 2. 3. において示した、分野「著作家別」における論文数が1位から3位までの3名（夏目漱石、太宰治、森鷗外）を取り上げることとする。3名のうち、夏目漱石、森鷗外の2名は、澤井（1995²⁾）と同一である。

ここで調査対象となるのは、前述のとおり、発行期間が1997年から2017年までの分野「著作家別」のデータ 57,579件である。論文タイトルが調査の主な対象となるが、「著作家別」の論文タイトルには当然、当該著作家の著作物のタイトルが含まれることが多いと思われるため、ここでは著作物のタイトルを調査することとした。ただしこの場合、例えば「走れメロス」のように、著作物のタイトルであることが容易に判断できることもあれば、「津軽」や「思ひ出」、「列車」、「花火」のように、判断が容易ではないこともある。本稿では、調査対象となるデータに対して計量的な分析を行うため、事前に、ある語句が著作物のタイトルであるか否かを、機械的に区別しておく必要がある。そこで今回は、何らかの括弧で括られた語句を著作物のタイトル候補と捉えることとした。これは、著作物のタイトルは括弧で括られることが多いからである。実際に上記の例で言えば、対象データの中に現れる「走れメロス」は、例外的な1件を除けば、それ以外は全て何らかの括弧で括られていた。また、「著作家別」のデータ 57,579件のうち36,678件は、何らかの括

弧を含んでいた。もちろん、括弧で括られた全ての語句が著作物のタイトルとは限らず、さらに括弧で括られていないタイトルもあり得るが、それでも、文学研究の動向を調査しその実態を把握するという本稿の目的を達成することは可能である。なお、調査対象の3名の主要な著作物は小説なので、小説タイトルに限定して、その調査結果を述べる。

第10表 「統一タイトル」とその他のタイトルの一例

「統一タイトル」	その他のタイトル
こころ	こゝろ、心、心（こゝろ）、こゝろ
坊っちゃん	坊ちゃん、坊っちゃん、坊つちゃん、坊つちゃん
駈込み訴へ	駈込み訴へ、駈込み訴え
ろまん燈籠	ろまん燈籠
猿ヶ島	猿が島、猿ヶ島
お伽草紙	お伽草子
吾輩は猫である	吾輩ハ猫デアル
山椒大夫	山椒太夫
新ハムレット	新ハムレット
薙露行	薙露行（かいろうこう）
葉桜と魔笛	葉桜と魔笛
二十世紀旗手	二十世紀旗手（版画荘文庫4）

小説タイトルの抽出には、主にMicrosoft Excelを使用した。まずは、論文タイトルの中から、何らかの括弧で括られた語句を抽出し、その出現頻度、つまりそれらの語句を含む論文数を集計した。集計にあたっては、一つの論文タイトルに複数の異なる語句が含まれている場合は、それぞれ1件と数えた。一方、一つの論文タイトルに同一の語句が複数含まれる場合は1件のみ数えた。次にそこから、調査対象とした3名の小説タイトルを抜き出した。個々の小説タイトルは、それぞれの全集に依拠した³²⁾。続いて、同一の小説に対する異なるタイトル表記を統一した。第10表は、統一作業を行った小説タイトルの一例である。この表に示したように、例えば「坊っちゃん」については、「坊っちゃん」以外に「坊ちゃん」、「坊っちゃん」、「坊つちゃん」、「坊

「つちゃん」の表記が存在した。このような場合、それらの中で出現頻度が一番高い語句を「統一タイトル」とした。「坊っちゃん」の例で言えば、「坊っちゃん」がそれにあたる。最後に、3名の小説タイトルと同一表記でありながら、一般名詞など小説タイトルではない語句や、他の著作家の著作物を取り除いた。前者については、「父」、「母」、「青年」、「ころ」、「故郷」などの一般名詞や、「朝」、「火の鳥」、「行人」といった雑誌名などを除外した。一方、後者の他の著作家の著作物については、調査対象3名の小説タイトルと同一タイトルの著作物を持つ他の著作家の一例を第11表に示した。また、第11表には示していないが、夏目漱石の「永日小品」の中的一篇には「心」や「蛇」があり、これらは夏目漱石自身の「ころ」（心）や、森鷗外の「蛇」と同一タイトルであるため、これらも除外した。以上の、タイトルの統一および同一タイトルを持つ他の著作物の除外に関しては、機械的な処理が困難であるため、筆者の目視により作業を行った。

第11表 調査対象3名の小説タイトルと同一タイトルの著作物を持つ
他の著作家の一例

小説タイトル	他の著作家	小説タイトル	他の著作家
庭	芥川龍之介, 新井豊美, 河野裕子	夏 ころ	谷川俊太郎
故郷	魯迅, 伊藤信吉	目 心	小泉八雲
花火	内田百閒, 永井荷風	漱 明暗	野上弥生子
父	芥川龍之介, 横光利一	石 坑夫	宮嶋資夫
母	芥川龍之介, 鶴見祐輔, 三浦綾子	草枕	田山花袋
帰去来	国木田独步	青年	林房雄
散華	高橋和巳	心中	川端康成
思ひ出	北原白秋	蛇	川端康成, 田村俊子
朝	岡本睦	寒山拾得	井伏鱒二, 芥川龍之介
女神	三島由紀夫	灰燼	古泉千樞, 徳富蘆花, 上司小剣
桜桃	森内俊雄	鶏	中島敦
水仙	中里恒子, 林芙美子	舞姫	与謝野晶子, 川端康成
雀	色川武大	高瀬舟	宇野信夫
喝采	大江健三郎, 清水哲男	木精	北杜夫
火の鳥	与謝野晶子	金毘羅	笹野頼子
走れメロス	森見登美彦		

4. 3. 2. 小説タイトルを論文タイトルに含む論文数

前項4. 3. 1. の作業により抽出した各小説タイトルを論文タイトルに含む論文数を第12表に示した。3名のうち夏目漱石に関しては、論文数が1件以上の全ての小説タイトルを載せてある。これに対し他の2名については、表が必要以上に細くなることを避けるため、夏目漱石の水準に合わせて論文数が5件以上の小説タイトルのみを載せた。なお、例えば太宰治の「お伽草紙」は、「浦島さん」、「カチカチ山」、「瘤取り」、「舌切雀」の4篇よりなるが、これら個々のタイトルが論文タイトルに含まれていたとしても、そこに「お伽草紙」という語句が含まれていなければ、その論文タイトルには小説タイトル「お伽草紙」は含まれていないこととした。これは本稿が、機械的な処理を優先するためである。

第12表に示したように、夏目漱石の小説タイトルを論文タイトルに含む論文数（5件以上）は合計1,631件であり、同様に太宰治は1,221件、森鷗外は584件であった。また、合計数に対する個々の小説タイトルの割合を見ると、夏目漱石については、「こころ」が15.4%で特に高く、次の「明暗」（9.3%）および「坊っちゃん」（9.0%）を経て、「それから」（6.9%）以降は比較的なだらかに減少している。次に太宰治に関しては、最も割合が高い「人間失格」であってもその割合は5.7%にとどまり、以降も「斜陽」（5.5%）、「女生徒」（3.6%）、「走れメロス」（3.5%）と徐々に減少してゆき、特に割合の高いタイトルは見当たらない。これに対し森鷗外については、「舞姫」の割合が35.0%に達し、これに続く「うたかたの記」（8.3%）、「雁」（6.6%）、「青年」（6.0%）と比べても、「舞姫」の割合は突出している。

第12表 調査対象3名の小説タイトルを論文タイトルに含む論文数（5件以上）

夏目漱石	論文数	割合	葉桜と魔笛	17	1.4%	黄村先生言行録	6	0.5%
こころ	251	15.4%	魚服記	17	1.4%	親友交歓	6	0.5%
明暗	152	9.3%	作家の手帖	17	1.4%	玩具	6	0.5%
坊っちゃん	146	9.0%	竹青	16	1.3%	火の鳥	6	0.5%
それから	112	6.9%	皮膚と心	15	1.2%	庭	6	0.5%
三四郎	110	6.7%	彼は昔の彼ならず	15	1.2%	響応夫人	6	0.5%
彼岸過迄	108	6.6%	グッド・バイ	14	1.1%	桜桃	6	0.5%
草枕	105	6.4%	思ひ出	14	1.1%	佳日	5	0.4%
夢十夜	98	6.0%	苦悩の年鑑	13	1.1%	男女同権	5	0.4%
行人	93	5.7%	燈籠	12	1.0%	逆行	5	0.4%
道草	90	5.5%	正義と微笑	12	1.0%	断崖の錯覚	5	0.4%
門	86	5.3%	誰	12	1.0%	新郎	5	0.4%
虞美人草	74	4.5%	花吹雪	12	1.0%	雪の夜の話	5	0.4%
吾輩は猫である	60	3.7%	二十世紀旗手	12	1.0%	貨幣	5	0.4%
趣味の遺伝	29	1.8%	畜犬談	11	0.9%	十五年間	5	0.4%
倫敦塔	19	1.2%	きりぎりす	11	0.9%	合計	1,221	100.0%
野分	18	1.1%	葉	11	0.9%	森鷗外	論文数	割合
琴のそら音	17	1.0%	待つ	11	0.9%	舞姫	203	35.0%
坑夫	16	1.0%	ダス・ゲマイネ	10	0.8%	うたかたの記	48	8.3%
二百十日	14	0.9%	地球図	10	0.8%	雁	38	6.6%
薙露行	11	0.7%	陰火	10	0.8%	青年	35	6.0%
一夜	8	0.5%	ろまん燈籠	10	0.8%	高瀬舟	26	4.5%
文鳥	8	0.5%	メリクリスマス	9	0.7%	文づかひ	24	4.1%
幻影の盾	6	0.4%	列車	9	0.7%	キタ・セクスアリス	21	3.6%
合計	1,631	100.0%	HUMAN LOST	9	0.7%	山椒大夫	20	3.4%
太宰治	論文数	割合	チャンス	9	0.7%	半日	18	3.1%
人間失格	69	5.7%	母	9	0.7%	阿部一族	13	2.2%
斜陽	67	5.5%	水仙	8	0.7%	蛇	12	2.1%
女生徒	44	3.6%	千代女	8	0.7%	かのやうに	12	2.1%
走れメロス	43	3.5%	めくら草紙	8	0.7%	普請中	9	1.6%
道化の華	40	3.3%	満願	8	0.7%	花子	9	1.6%
お伽草紙	40	3.3%	姥捨	8	0.7%	安井夫人	9	1.6%
バンドラの匣	37	3.0%	花火	8	0.7%	寒山拾得	8	1.4%
新釈諸国断	30	2.5%	おさん	8	0.7%	最後の一句	7	1.2%
津軽	30	2.5%	乞食学生	7	0.6%	藤棚	6	1.0%
惜別	26	2.1%	眉山	7	0.6%	ちいさんばあさん	6	1.0%
十二月八日	26	2.1%	佐渡	7	0.6%	大発見	6	1.0%
富嶽百景	26	2.1%	猿ヶ島	7	0.6%	金毘羅	6	1.0%
駈込み訴へ	25	2.0%	雀こ	7	0.6%	百物語	6	1.0%
トカトントン	25	2.0%	猿面冠者	7	0.6%	鼠坂	6	1.0%
ヴィヨンの妻	24	2.0%	盲人独笑	7	0.6%	沈黙の塔	6	1.0%
新ハムレット	23	1.9%	東京だより	7	0.6%	堺事件	6	1.0%
東京八景	21	1.7%	ロマネスク	6	0.5%	灰燼	5	0.9%
清貧譚	20	1.6%	黄金風景	6	0.5%	妄想	5	0.9%
散華	19	1.6%	春の盗賊	6	0.5%	佐橋甚五郎	5	0.9%
右大臣実朝	18	1.5%	風の便り	6	0.5%	魚玄機	5	0.9%
女の決闘	17	1.4%	律子と貞子	6	0.5%	合計	580	100.0%

5. 考察

5. 1. 発行年別論文数の減少要因

第1表および第2図に示されたように、発行年別論文数は2008年（前後）をピークとして、その後は減少傾向にある。特に2013年から2014年にかけては大きく減少し、2014年以降は横ばい状態となるが、一部の「時代分類」には上昇傾向も確認できる。論文数全体の約35%を時代分類「近代文学」が占めるため、「近代文学」にける発行年別論文数減少の理由を考察することによって、論文数全体における減少理由を推測することが可能だと思われる。ここでは、「近代文学」の大部分（約62%）を占める分野「作家別」を「近代文学」の代表として考察を加える。

発行年別論文数の増減に関してはいくつかの理由が考えられる。例えば、論文執筆者数の増減、社会情勢の変化、研究の材料となる全集や選集の発行、コアジャーナルの変動、他分野の研究との関連などである。これらのうち、本稿の範囲で確認が可能な、論文執筆者数の増減およびコアジャーナルの変動を以下に検討する。まず発行年別の論文数と執筆者数との関係を、第2表および第4表に示したデータに基づいて図示した（第3図参照）。一見して両者の相関性が高いことが分かる（相関係数0.95）。また、いずれも第2図に示した「近代文学」のグラフと形状が類似しており、ほぼ中央にピークを持ち、上りは緩やかで下りは急な「山形」を描いている。さらに、2013年から2014年にかけての急激な減少と、2015年から2016年にかけての反動的な増加も同様に確認できる。



次にコアジャーナルの変動については、すでに第6表において掲載論文数の経年変化を示しているが、あらためてここで詳細を確認したい。はじめに、いくつかの雑誌はある年以降の掲載論文数が0件になっているが、これらはいずれも休刊となった雑誌である。具体的には、「解釈と鑑賞」（平成23年10月号をもって休刊）、「国文学」（平成21年7月号をもって休刊）、「文学」（2016年11、12月号をもって休刊）、「俳句研究」（2011年8月号をもって休刊）である。これら5誌のうち「文学」以外の4誌は、2009年から2011年にかけて休刊しており、当然のことながら、休刊の翌年以降の掲載論文数が0件となっている。分野「作家別」の論文数の経年変化を細かく見ると、2006年のピークから2009年にかけて減少し、そこから2013年までは横ばいに近い状態が続いている。上記4誌が休刊した翌年、つまり掲載論文数が0件となった2010年から2012年は、この「横ばいに近い状態」の中にあり、緩やかな減少は見られるものの、これら4誌の休刊が論文数の減少に大きな影響を与えた事実は認められない。

他方で、休刊した上記5誌とは別に、特定の年の論文数が0件の雑誌があ

る。具体的には、「短歌」(2014, 2015),「新潮」(2014),「文学界」(2015, 2016),「あるご」(2013, 2014, 2015),「江古田文学」(1997, 1998, 2013, 2014, 2015),「短歌研究」(2014, 2015),「短歌21世紀」(1997, 2014),「波」(1997, 2007, 2014, 2015),「図書」(2014),「俳句」(1997, 1998, 1999, 2006, 2014, 2015)である。発行年ごとに見ると,1999年,2006年,2007年,2016年は各1誌,1998年,2013年は各2誌,1997年は4誌であるのに対し,2014年9誌,2015年は7誌と,2014年と2015年に集中している。先に述べたように,分野「著作家別」の発行年別論文数は,2013年から2014年にかけて急激に減少し,2015年から2016年にかけて反動的に増加する。つまり2014年から2015年にかけてグラフ上に「谷底」を形成する。この「谷底」の期間と上に挙げた論文数0件の雑誌が集中する期間が一致すること,また2014年および(または)2015年に論文数が0件となる雑誌についても急激に0件に向い,そして反動的に数を戻していることから,「谷底」形成の直接の要因の一つは,論文数0件の雑誌が集中したことにあると考えられる。なお,特定の期間に論文数0件の雑誌が集中した要因についても検討する必要があるが,本稿の範囲を超えるため,これ以上追求しないこととする。

5. 2. 夏目漱石の2016年から2017年にかけての論文数急増の要因

先に,4.2.3.の著作家別の論文数で述べたように,論文数が上位5名の発行年別論文数の経年変化を見ると,2008年から2017年にかけて夏目漱石以外の4名は減少傾向にあるが,夏目漱石についてはほぼ横ばい状態にあり,特に2015年から2017年にかけて大きく増加していた。この理由を探るべく,筆者が目視で個々の論文タイトルを確認したところ,没後100年や生誕150年を記念した特集や個別の論文が目立った。夏目漱石の生年は1867年,没年は1916年であるから,正確に言えば,生誕150年は2017年,没後100年は2016年となるが,2016年から2017年にかけてそれぞれを記念する論文が混在している。また,論文タイトル中に没後100年あるいは生誕150年に関する語句を明確に含む論文数は,2016年は8件,2017年は12件と多くはないが,2017年には夏目漱石の特集が組まれているように,論文タイトルには明確に表れていなくとも,没後100年あるいは生誕150年を記念した論文が一定数あると思われる。なお,1997年から2017年の期間には,太宰治

および森鷗外についても記念すべき年はあるが、論文数を見る限り、夏目漱石の2016年から2017年にかけてのような急増は見られない。夏目漱石であっても、没後90年の2006年や生誕140年の2007年には、このような急増は認められない。このことから、2016年から2017年にかけての急増については、没後100年および生誕150年という大きな節目の年が2年連続したことが、その要因の一つではないかと考えられる。

5. 3. 森鷗外における小説タイトルを論文タイトルに含む論文数割合の低さの要因

夏目漱石、太宰治、森鷗外について、著作家名を論文タイトルに含む論文数（第8表）に対する、小説タイトルを論文タイトルに含む論文数（第12表）の割合を比較すると、夏目漱石は約84%（1,631件/1,938件）、太宰治は約86%（1,221件/1,417件）、森鷗外は約44%（580件/1,323件）となり、森鷗外に関する割合の低さが顕著である。第12表には論文数が5件以上の小説タイトルのみ載せていることもあるが、森鷗外の場合、4件以下の論文数を合わせたとしても、その割合は50%程度である。前に述べたように、森鷗外については「舞姫」を論文タイトルに含む論文数が、他の小説タイトルを含む論文数に比べて圧倒的に多い。一方で、著作家名を論文タイトルに含む論文数に対する、個々の小説タイトルを論文タイトルに含む論文数の割合で言えば、夏目漱石の「こころ」が約13%（251件/1,938件）であるのに対し、森鷗外の「舞姫」は約15%（203件/1,323件）となり、両者に大きな差は見られない。このことから考えれば、「舞姫」を論文タイトルに含む論文数が他の小説タイトルに比べて突出していると捉えるよりも、「舞姫」以外の小説タイトルを含む論文が大変少ないと捉えた方が良いのかもしれない。なお、上の調査は著作物を小説に限定している。仮に小説以外の著作物を含む全ての著作物について、それら著作物のタイトルを論文タイトルに含む全ての論文数を合計すると、その割合は、著作家名を論文タイトルに含む論文数に対して、夏目漱石および太宰治は約90%、森鷗外は約60%となる。この場合にはその差は縮まるが、依然として森鷗外と他の2名との間には約1.5倍の開きがある。

なお、森鷗外に関して、著作家名を論文タイトルに含む論文数に対する、

小説タイトルを論文タイトルに含む論文数の割合が、他の2名に比べて低いということは、逆に見れば、小説タイトルを論文タイトルに含まない論文数の割合が、他の2名に比べて高いということになる。したがって次になすべきことは、小説タイトルを論文タイトルに含まない論文数の割合が高い要因を考察することだが、これについては本稿の範囲を超えるため、ここでは扱わないこととする。

6. 結論

本稿では、「国文学論文目録データベース」を使用し、主に論文タイトルに対してテキストマイニングの手法を用いて、1997年以降の日本文学の研究動向を調査した。その結果、まず全体的に見ると、1997年以降の論文数は、先行研究で示された増加（上昇）傾向を受け比較的緩やかに増加してゆき、2008年にピークを迎えると、その後は急激な減少に転じる「山形」を描いていた。特に2013年から2014年にかけて大きく減少（下降）し、その後は横ばい状態となった。全体（268,422件）を「時代分類」ごとに見ると、「近代文学」が92,813件で全体の34.6%を占めており、以下は「近世文学」の40,994件（15.3%）、「中世文学」の31,308件（11.7%）が続いた。これら3種類の論文数の経年変化には全体と同様の「山形」が認められたが、「近代文学」についてはピーク以降の減少が比較的緩やかであり、全体に対する割合は1997年の30.7%から徐々に上昇してゆき、2016年には42.7%に達していた。また、「近代文学」では2015年から2016年にかけて反動的な増加（上昇）があり、結果として2014年から2015年にかけて「谷底」を形成していた。

論文数の増減の要因の一つは執筆者数の増減であり、両者には非常に強い相関性が認められた。全体の主要部分である「近代文学」の6割強を占める分野「作家別」について、執筆者数と論文数の関係を見ると、1997年から2017年までの21年間の執筆者数合計（異なり数）は16,227名で、各年の執筆者数の平均は1,893名であった。また21年間の論文発表数が1件の執筆者数は、執筆者数合計（16,227名）の約6割（9,581名）を占めていた。これに発表数が2件および3件の執筆者数を加えるとその割合は約8割（12,850名）に達した。一方、これらの執筆者（12,850名）が執筆した論文

数 (17,125 件) は全体 (57,579 件) の約 3 割であった。

同じく分野「作家別」の掲載雑誌について見ると、多くの論文が掲載される主要雑誌（コアジャーナル）の存在が認められ、掲載論文数が多い順に並べた場合、上位 25 誌の累計論文数は、「作家別」の全論文数 (57,579 件) の 30.7% に達していた。この 25 誌の発行年ごとの掲載論文数を見ると、特定の年の論文数が 0 件となる雑誌があり、そのような雑誌は、1999 年、2006 年、2007 年、2016 年は各 1 誌、1998 年、2013 年は各 2 誌、1997 年は 4 誌であるのに対し、2014 年は 9 誌、2015 年は 7 誌と、2014 年と 2015 年に集中していた。さらに、これらの雑誌の論文数が前年から急激に 0 件に向い、そして反動的にその数を戻していることから、2014 年から 2015 年にかけて論文数 0 件の雑誌が集中したことは、同期間に「作家別」そして「近代文学」の論文数が「谷底」を形成した要因の一つだと考えられる。

次に、分野「作家別」において、作家名を論文タイトルに含む論文数を集計したところ、論文数が多い順に並べた場合、上位 46 名までの論文数小計 (23,151 件) は、「作家別」の論文数合計 (57,579 件) の 40% を超えていた。このうち 1 位の夏目漱石は 1,938 件 (3.37%) と特に多く、これに太宰治 (1,417 件、2.46%)、森鷗外 (1,323 件、2.30%)、宮沢賢治 (1,301 件、2.26%)、芥川龍之介 (1,251 件、2.17%) の 4 名が続いた。この 5 名の発行年別論文数の経年変化を見ると、5 名とも 1997 年から 2017 年にかけて減少傾向にあるが、後半の 10 年間 (2008 年から 2017 年) だけを見れば、夏目漱石以外の 4 名は依然として減少傾向にあるのに対し、夏目漱石については 2015 年から 2017 年にかけて大きく増加しているため、この 10 年間の傾向としてはほぼ横ばい状態にあった。夏目漱石の 2015 年から 2017 年にかけての大幅な増加については、夏目漱石の没後 100 年 (2016 年) および生誕 150 年 (2017 年) という大きな節目の年が 2 年連続したことが、その要因の一つと考えられる。

さらに、上位 3 名の夏目漱石、太宰治、森鷗外について、小説タイトルを論文タイトルに含む論文数を集計したところ、夏目漱石は 1,631 件、太宰治は 1,221 件、森鷗外は 580 件となり、それらの、作家名を論文タイトルに含む論文数に対する割合を見ると、夏目漱石は約 84%、太宰治は約 86%、森鷗外は約 44% で、森鷗外に関する割合の低さが顕著であった。一方、合計数 (1,631 件、1,221 件、580 件) に対する個々の小説タイトルの割合を見ると、

夏目漱石については、「こころ」が15.4%で特に高く、以降は「明暗」(9.3%),「坊っちゃん」(9.0%)と続いた。また太宰治に関しては、最も割合が高い「人間失格」であっても5.7%にとどまり、以降も「斜陽」(5.5%),「女生徒」(3.6%)と続き、特に割合の高いタイトルは見当たらなかった。これに対し森鷗外については「舞姫」の割合が35.0%に達し、続く「うたかたの記」(8.3%),「雁」(6.6%),「青年」(6.0%)と比べても、「舞姫」の割合は突出していた。ただし、著作家名を論文タイトルに含む論文数に対する割合で言えば、夏目漱石の「こころ」が約13% (251件/1,938件) であるのに対し、森鷗外の「舞姫」は約15% (203件/1,323件) となり、両者に大きな差は見られなかった。このことから、「舞姫」を論文タイトルに含む論文数が他の小説タイトルに比べて突出していると捉えるよりも、「舞姫」以外の小説タイトルを含む論文が大変少ないと捉えた方が良いと思われる。このことが、森鷗外に関して、小説タイトルを論文タイトルに含む論文数の割合が、夏目漱石および太宰治に比べて大幅に低い要因の一つになっている可能性がある。

以上の結論となったが、最後に本稿の限界を述べたい。まずは調査が「国文学論文目録データベース」のデータに基づいていることである。同データベースが、日本文学関連の研究論文を網羅的に収録していることについては申し分ないが、データに不自然と思われる点があっても追求せず、本稿ではそれを事実と捉えた。次に調査手法については、先行研究の多くが、調査対象となるテキストを形態素解析等により単語に分割し、それらの出現頻度や共起関係等を分析しているが、本稿では著作家名や小説タイトルの集計にとどまっていることである。これは、主な調査対象が時代分類「近代文学」における分野「著作家別」のデータで、そこでは著作家名や著作物のタイトルが重要な要素となっており、それら以外の語句に対して計量的な分析を加えることの意味を見いだせなかったためである。これら本稿の限界に関しては、次稿であらためて検討することとしたい。

【注・引用文献】

- 1) 国文学研究資料館. “国文学論文目録データベース”. 国文学研究資料館.
<https://base1.nijl.ac.jp/~rombun/>, (参照 2022-12-31).
- 2) 澤井清. 国文学論文目録データベースからみた近代文学の研究動向：
島崎藤村，森鷗外，夏目漱石の場合. 日本文学ノート. 1995, no. 30,
p. 196-216.
- 3) 澤井清. 国文学の研究動向：国文学論文目録データベース（1926年～
1996年）を利用した調査. 日本文学ノート. 2000, no. 35, p. 187-194.
- 4) 澤井清. 国文学の研究動向：雑誌記事索引を利用した10年間の調査.
日本文学ノート. 1996, no. 31, p. 252-258.
- 5) 現在はCiNii等を通じた利用が可能となっている。
- 6) 本文中では13区分を示す際に「現代文学」ではなく「近代文学」が用
いられているが，以降の本文中に登場するグラフでは「現代文学」が用
いられているため，ここでは「現代文学」とした。
- 7) 本文中では，上代文学，平安文学，中世文学，近世文学の4分野を古典
文学と呼んでいる。
- 8) 本文中では，現代文学，戯曲，詩，短歌，俳句，児童文学の6分野を近
代文学と呼んでいる。
- 9) CiNii（NII学術情報ナビゲータ）は，国立情報学研究所（NII）による，
論文や図書・雑誌等の学術情報を検索することができるデータベース・
サービス。
- 10) 畑野裕子. 「国際理解教育」の研究動向に関する一考察：CiNii掲載論文
のタイトルに対するテキストマイニングを用いて. 神戸親和女子大学大
学院研究紀要. 2020, no. 16, p. 37-47.
- 11) 畑野裕子，森山潤. 「総合的な学習の時間」における情報教育に関する
研究動向の分析と今後の展望：CiNii掲載論文のタイトルに対するテキ
ストマイニングを用いて. 神戸親和女子大学児童教育学研究. 2017,
no. 37, p. 165-175.
- 12) 畑野裕子，大竹留美，阪江豪. 「保育実習指導」の研究動向に関する一
考察：CiNii掲載論文のタイトルに対するテキストマイニングを用いて.
教職課程・実習支援センター研究年報. 2019, no. 2, p. 107-118.

- 13) 畑野裕子. 「保育内容」の研究動向に関する一考察: CiNii掲載論文のタイトルに対するテキストマイニングを用いて. 神戸親和女子大学児童教育学研究. 2019, no. 38, p. 231-245.
- 14) 畑野裕子. 子どもの「運動遊び」に関する研究動向と展望に関する一考察: CiNii掲載論文のタイトルに対するテキストマイニングを用いて. 教職課程・実習支援センター研究年報. 2018, no. 1, p. 151-162.
- 15) 畑野裕子. 体育科の授業におけるダンス教育の研究動向に関する一考察: CiNii掲載文献の中学校・高等学校のダンスに関する論文タイトルを中心に. 教職課程・実習支援センター研究年報. 2020, no. 3, p. 145-157.
- 16) 畑野裕子, 大竹留美. 保育内容「環境」の研究動向に関する一考察: CiNii掲載論文のタイトルに対するテキストマイニングを用いて. 神戸親和女子大学児童教育学研究. 2020, no. 39, p. 193-205.
- 17) 高畑芳美. 法令の改訂に伴う保育内容「人間関係」の研究動向. 梅花女子大学心理こども学部紀要. 2021, no. 11, p. 1-9.
- 18) 厨子健一. わが国におけるスクールソーシャルワーク研究の動向と課題: 論文タイトルを用いたテキストマイニング. 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要. 2018, no. 3, p. 35-44.
- 19) 三尾弘子, 林さえ子, 福田博美, 藤井紀子, 小川真由子, 水野昌子, 植田ひろみ, 永石喜代子. 看護のシミュレーション教育のロールプレイに関する文献検討: 論文タイトルのテキストマイニング (KH Coder) を用いた分析. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究. 2017, vol. 3, no. 1, p. 215-222.
- 20) CiNii Articlesは, 国立情報学研究所 (NII) によるCiNii (NII学術情報ナビゲータ) を構成するデータベースの一つで, 学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索の対象としていたが, 2022年4月18日にCiNii Researchに統合された。
- 21) 山本裕二. テキストマイニングによるスポーツ心理学の論文タイトルの解析. 総合保健体育科学. 2021, vol. 44, no. 1, p. 1-17.
- 22) 小田切康彦. 政策系大学における研究動向: 論文タイトルを用いたテキ

- ストマイニングから、徳島大学社会科学研究、2014, no. 28, p. 61-82.
- 23) 許挺傑、日本における中国語教育研究の現状と課題：学会誌『中国語教育』の論文タイトルのテキストマイニングを通して、大分県立芸術文化短期大学研究紀要、2021, vol. 58, p. 69-80.
- 24) 藤岡勲、複数の人種的背景を持つ人々を対象とした心理学的研究の動向：計量テキスト分析を活用した把握、佛教大学教育学部学会紀要、2021, no. 20, p. 91-102.
- 25) 樋口耕一、社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して、ナカニシヤ出版、2014, 233p.
- 26) 樋口耕一、KH Coder、<https://kncoder.net/>、(参照 2022-02-27).
- 27) 発行年が1926年から1996年の論文数については、澤井（2020）の数ではなく、今回新たに計数した。
- 28) ある執筆者に単著と共著があった場合、それぞれを別の執筆者として捉えた。また共著の組み合わせや表示順が異なる場合も、別々の執筆者とした。
- 29) 「複合語の検出」には「TermExtractを利用」と「茶筌を利用」の二つの選択肢があり、本稿では後者を利用した。なお「茶筌」とは、形態素解析ツールの一種である。
- 30) 夏目漱石の1998年から2017年の論文数データに対して近似曲線を引くと、その傾きはほぼ水辺となる。
- 31) 例外的な1件とは、『新釈 走れメロス 他四篇』のことである。
- 32) 本稿が拠り所とした全集は以下の3点である。
夏目漱石、夏目漱石全集、筑摩書房、1988, 10冊、(ちくま文庫)。
太宰治、太宰治全集、筑摩書房、1999, 13冊。
森鷗外、森鷗外全集、筑摩書房、1996, 14冊、(ちくま文庫)。

(本学准教授)

付録 分野「作家別」における論文数（コーディング対象167名）

著作家名	論文数	著作家名	論文数	著作家名	論文数	著作家名	論文数
*夏目漱石	1,938	*林芙美子	233	*正宗白鳥	93	*梅崎春生	63
*太宰治	1,417	*佐藤春夫	232	*土屋文明	92	*吉田健一	61
*森鷗外	1,323	*井伏鱒二	225	*徳田秋声	91	*石川達三	61
*宮沢賢治	1,301	*江戸川乱歩	218	*吉増剛造	90	*稲垣足穂	61
*芥川龍之介	1,251	*中上健次	207	*立原道造	89	*北園克衛	60
*正岡子規	927	*福沢諭吉	206	*岩野泡鳴	89	*岡井隆	60
*谷崎潤一郎	768	*幸田露伴	197	*三ヶ島葭子	86	*原阿佐緒	59
*三島由紀夫	761	*梶井基次郎	194	*辻井喬	85	*高見順	59
*川端康成	718	*佐佐木信綱	193	*阿部知二	85	*古井由吉	59
*村上春樹	649	*井上靖	185	*宮本百合子	85	*上林暁	59
*泉鏡花	591	*大岡昇平	175	*江藤淳	83	*小川未明	59
*石川啄木	562	*種田山頭火	175	*田村俊子	83	*鎌田敏止	58
*横光利一	561	*寺山修司	174	*柳宗悦	82	*川上弘美	58
*志賀直哉	520	*菊池寛	173	*宇野浩二	82	*小暮政次	58
*斎藤茂吉	481	*武田泰淳	163	*和辻哲郎	80	*武智鉄二	58
*中原中也	470	*西田幾多郎	163	*山口誓子	80	*上田三四二	58
*与謝野晶子	445	*石川淳	161	*小川国夫	79	*三好達治	57
*樋口一葉	426	*国木田独歩	149	*金子光晴	78	*花田清輝	56
*坂口安吾	398	*司馬遼太郎	145	*鈴木大拙	78	*葛西善蔵	56
*折口信夫	373	*塚本邦雄	137	*二葉亭四迷	78	*斎藤史	54
*遠藤周作	365	*椎名麟三	136	*伊藤左千夫	76	*佐佐木幸綱	53
*永井荷風	347	*松本清張	131	*武川忠一	75	*田辺聖子	52
*萩原朔太郎	342	*福永武彦	128	*吉井勇	73	*草野心平	51
*中野重治	335	*島尾敏雄	128	*大岡信	71	*宮本輝	51
*大江健三郎	323	*高村光太郎	126	*渋沢龍彦	71	*横溝正史	51
*小林秀雄	322	*内田百閒	118	*辻邦生	71	*小川洋子	50
*島崎藤村	322	*武者小路実篤	116	*火野葦平	71	*北杜夫	50
*吉本隆明	300	*谷川俊太郎	115	*島木赤彦	71	*藤井貞文	50
*安部公房	292	*井上ひさし	112	*幸田文	70	*堀田善衛	50
*北村透谷	284	*保田与重郎	110	*村上龍	69	*倉橋由美子	49
*岡本かの子	278	*尾崎紅葉	109	*多和田葉子	69	*山之口鏡	48
*北原白秋	277	*尾崎翠	108	*金子みすゞ	68	*山本有三	48
*柳田国男	273	*野上弥生子	107	*夢野久作	68	*丸山薫	48
*南方熊楠	268	*小林多喜二	105	*内村鑑三	68	*筒井康隆	46
*高浜虚子	264	*木俣修	103	*野口富士男	67	*三木露風	45
*中島敦	263	*佐藤佐太郎	103	*藤沢周平	66	*島田雅彦	45
*室生犀星	263	*埴谷雄高	101	*丸山真男	66	*北川透	42
*若山牧水	258	*鮎川信夫	99	*西脇順三郎	65	*茨木のり子	42
*堀辰雄	257	*岡倉天心	97	*新美南吉	65	*入沢康夫	38
*有島武郎	245	*佐多稲子	96	*織田作之助	64	*吉川英治	37
*小泉八雲	243	*芹沢光治良	95	*庄野潤三	64	*長沢延子	30
*田山花袋	242	*魯迅	93	*中村正直	64		